平成26年度第1回幹事会の意見に関する対応について

■全般

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 委員 | 指摘 | 対応 | 計画での  対応箇所 |
| 河野  教授 | 誰が、どのように使うのか、計画の使途を明確にするべきである。 | 府技術職員を主たる対象とし、職員全員が共通の認識を持つようにする。  府内市町村も意識したもの。 |  |
| 鎌田  教授 | 課題認識は、さまざまな要因を凝縮し、メリハリをつけ、もっと強調する等の工夫が必要である。 | 個々の取組と課題を整理し、それらを踏まえて課題認識を再整理する。 | と：P2～5  素：P4～23 |
| 井上  教授 | 分野横断的なアプローチについて、現状では出来ていないので、今後具体的な検討を進め、その結果まで踏み込んで記述して頂きたい。 | 今後、各分野部会の議論を踏まえて、全体検討部会で整理する。 | と：Ｐ５  素：P23 |
| 鎌田  教授 | **各分野に主な施策の特徴や類似点、あるいは相違点があるので、その相互の関係をまとめたデータを位置付けられないか。** | 今後、全体検討部会で検討を行う。 |  |
| 古田  教授 | 各部会には、すぐ実践できるものと段階的にできるものを分類し、段階的なものについては、そのプロセスも含めて明確にして頂きたい。 | 今後、各分野部会で検討を行う。 | と：Ｐ8  素：P31 |
| 奈良  教授 | 計画には、すぐに取組めるものやその目指すべき方針があり、少し長い目で考えるべき方針、そして10年の期間で目指すべき方向という形で示すべきである。 | 本計画の対象期間に記載する。 | と：P.6  素：P27 |
| 奈良  教授 | インフラ整備、維持管理も含めて予算が確保されないと実現できない。提言と基本方針、そして予算までどのように結びつけるかが重要である。 | すぐに実践できるものは取組んでいく他、今後、答申を踏まえて、行政としての行動計画を策定したいと考えている。 |  |
| 古田  教授 | 提言だけで終わらずに実現できることは強調し、実践していただきたい。 | すぐに実践できるものは取組んでいく他、今後、答申を踏まえて行動計画の中で実現していきたいと考えている。 |  |

■効率的・効果的な維持管理手法の確立

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 委員 | 指摘 | 対応 |  |
| 河野  教授 | 分野横断的な捉え方は、大阪府にとどまらず、国や他の都道府県など、他の管理者における維持管理の先行的な取組など、有益な情報を有効に活用していくということである。 | ・効率的・効果的な維持管理手法の確立章の取組方針に明記。  ・維持管理連携プラットフォームで他管理者との情報共有・連携を図る。 | と：P8  素：P31  と：P23  素：P68 |
| 河野  教授 | 広い意味でのアセットマネジメントを考えれば、分野横断的に考える必要があるが、まずは、分野単位で合理的に回せる仕組みを構築し、次の段階で分野横断的なアセットマネジメントを行うべきである。 | ・分野横断的に維持管理・更新に関しての、統一した考え方を基本方針に示し、その方針に則り、分野施設単位で行動計画を策定する。 |  |
| 河野  教授 | 計画には、今すぐに取組むこと、将来に取組むべきこと等の書き方を工夫するべきであり、例えば、劣化予測手法の補足説明の部分は参考資料にすべきである。 | ・効率的・効果的な維持管理手法の確立の章の取り組み方針に明記した。  今後個別に検討を進める。 | と：P8  素：P31 |
| 古田  教授 | 優先順位の考え方について、例えば、道路のネットワークとしての評価についても検討して頂きたい。 | 今後、道路・橋梁等部会で検討を行う。 |  |
| 古田  教授 | 過積載車両を考えると、土木業界だけの話にとどまらない、例えば、過積載できる車両があるのが疑問であり、自動車業界など他の業界とも議論していかなければ根本的な解決につながらないと感じているので、そのような視点でも考えて頂きたい。 | 今後、道路・橋梁等部会で検討を行う。 | と：P17  素：P54P55 |
| 奈良  教授 | **過積載など人為的な問題に対しては、コントロールしなければ、不確定要素が多くなり、維持管理の見通しが非常に悪くなるということを、課題として認識するべきである。** | 今後、各部会で検討を行う。 | と：P17  素：P54P55 |
| 河野  教授 | 過積載車両の取締りは、警察による規制が一番重要である。 | 警察と連携していく。  道路・橋梁部会で検討を行う。 | と：P17  素：P54P55 |
| 古田  教授 | **職員の方が直営で実施されている長寿命化に資する維持管理・修繕作業については、道路以外の分野についても検討して頂きたい。** | 今後、各分野部会で検討を行う。 | と：P17  素：P54P55 |
| 川合  教授 | 維持管理の工夫などいい提案があれば、表彰制度など、職員のやりがいやモチベーションに繋がるような仕組みや工夫が必要である。 | 既存の職員表彰制度を活用 | と：P18  素：P60 |
| 川合  教授 | データに関して、トラブルが発生した時に横断的にトラブルが無いかチェックできるデータの活用方法を検討して頂きたい。 | 緊急事象への対応  ・同様な施設、周辺環境であれば・・・ | P9  素：P38 |
| 井上  教授 | **データの管理者間や分野間での相互連携に関して、具体的な方策まで議論し、記述して頂きたい。例えば、全体のデータを管理する人を明確にするべきである。** | 基本的な考え方  ・各事務所は、データを管理する管理責任者・・・  ・管理責任者は、適宜・・・  ・事業（局・室・課）は、・・・適宜確認する。 | と：P17素:P58 |
| 古田  教授 | 限界管理水準・目標管理水準、更新について、各部会でさらに深く検討して頂きたい。 | 今後、各分野部会で検討を行う。 | と：P12～Ｐ14  素：P42～P52 |
| 古田  教授 | **点検や診断に関して、資格の検討も必要ではないか。職員の資格、委託に際する資格については、特に、道路・橋梁の資格については、効率的・効果的な維持管理の観点からも非常に意味を持ってくると思うので、議論を深めて頂きたい。** | 今後、各分野部会で検討を行う。 |  |

■持続可能な維持管理の仕組みづくり

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 委員 | 指摘 | 対応 |  |
| 川合  教授 | **職員の絶対数が減少した際の対策について、府民連携や企業連携など、仕事の量をどうカバーするかもご議論いただきたい。** | 今後、全体検討部会で検討を行う。 |  |
| 古田  教授・河野  教授 | キャリアアンケートについては、実施したことは非常に評価すべきで、基礎データがあるということは重要である。 |  |  |
| 川合  教授 | **ベテラン職員が減少する中で、人から人への技術伝承だけでなく、業務が維持できるよう今の内に仕組みを構築していただきたい。** | 今後、全体検討部会で検討を行う。 |  |
| 古田  教授 | **魅力づくりに関しては、給料が上がれば一番だが、学生の活用や施設の有効活用など、新しい視点も加えてご検討いただきたい。** | 今後、全体検討部会で検討を行う。  6.3維持管理業務の改善と魅力向上のあり方で検討 | と：P25  素:Ｐ76 |
| 奈良  教授 | 府民の方に説明する資料、市町村職員に対する説明する資料などユーザーを意識して検討して頂きたい。 | 今後、全体検討部会で検討を行う。 |  |
| 河野  教授 | 一般の方に対する資料では、過酷な現状と維持管理の取組みを説明する体裁にしなければいけないが、行政内部に対する資料であれば、限られた予算の使途や方法に重点を置いて記述しなければならない。 | 上記に同じ。 |  |
| 奈良  教授 | 都市基盤施設の重要性を誰にどういう形で発信していくのか、ターゲットを絞って考えなければならない。 | 上記に同じ。 |  |